

# 消防団たずね歩き

## 我が淡河支団とショーカッキー

淡河町は、神戸市北区の北西部にあり面積は約38km<sup>2</sup>、人口約3,200人、四方を山に囲まれた自然豊かな農村地域で、淡河八幡宮・石峯寺・厳島神社境内の無形文化財や農村歌舞伎舞台などの有形文化財のほか神戸市初の道の駅「淡河」もあります。

昨年は、風水害が多発したため各分団は詰所を開設し管内パトロールや河川の水位監視をおこない、河川の氾濫危険箇所や土砂崩れ箇所には、土のうを積むなど休む間もなく防災活動に従事しました。

我が淡河支団9分団15班、総員275人の精鋭団員は迅速かつ的確な防災活動をおこなうため、3月には山林火災を想定した訓練を実施しました。9分団を2中隊に分けてため池を水利とし、計7台のポンプを使い中継放水をおこない、同時に小型デジタル無線機を活用し、いかに簡潔明瞭に状況を報告し、また支団本部の指示どおりに活動できるか等、実戦に向けた訓練もおこないました。

また8月には、防災福祉コミュニティや淡河婦人会と合同で、規律訓練やロープ結索、小型動力ポンプ操法訓練・中継放水訓練、水消火器やバケツリレーでの初期消火訓練や応急手当訓練などを実施し、猛暑の中、皆汗を流しながら「淡河町の安全のために」という強い思いで訓練をこなしました。

これら訓練以外では、淡河町でおこなわ

れる各種催し物、町民運動会やふるさと祭りの会場警備や駐車場での車の誘導などの安全管理も実施しています。

特にふるさと祭りや防災イベントでは、我が淡河支団の防火広報マスコット「ショーカッキー」が登場し会場を大いに盛り上げました。（平成30年の年末特別警戒では消防局長視察激励時にも出動しました）

最後に災害が多様化する現在、淡河支団では将来くるであろう南海トラフ地震を想定した訓練を検討しており、これからも「安全・安心の町淡河」のために尽力したいと考えています。

（淡河支団本団分団長 今枝勇樹）



**地域に根付いた消防団を目ざしています!**

～地域住民の安全・安心を確保するために～



神戸市消防局  
神戸市消防団

